

2012年のお正月休みも明けて、新しい年の歩みが始まろうとしています。迎えることの出来たこの新しい年が、ここに集う私たち一人ひとりにとって、どのような一年になるのか、今はまだ、誰も知ることが出来ません。けれども、この新年に当たって、私たちが神に祈った祈りは今も私たちの心の中に響いているはずで、新年にあたって、私たちが祈った祈りは広がりを持った祈りであったはずで、私たちは自分も含めた、けれども、自分のためだけではない、全ての人の幸せを願って神に祈りをささげたはずで、その祈りを新たに、この一年の歩みを始めなければなりません。そしてその祈りをもってこの一年を歩み通さなければなりません。

そのためにも、この一年の初めにあたって、神に祈るということが、私たちにとってどのようなことであるかということ、あらためて考えてみる必要があるかもしれません。

迎えたこの新しい年がどのような年になるのか知ることが出来ない私たちにとって、新たな希望をもって歩み始めるためには、それを神の計らいに委ねるしかありません。私たちはこの一年を神の計らいに委ねて歩み始めるのです。神に祈っても、私たちの願いどおりに、神が応えてくださるとは限らないことを私たちは知っています。それにもかかわらず、私たちが神に祈るということは、それなしには、私たちは明日への希望を持ち続けることが出来なくなるからです。明日への希望を持ってなくなるとき、私たちは今日の新たな一步を踏み出すことが出来なくなります。神はそうにして、私たちの祈りに応えてくださるのです。私たちが今日の一步を踏み出すために必要としている希望の砦として、神は私たちの心の奥深くにいてくださるのです。私たちがこの新年に当たってささげた祈りは、そのような神に向かっての広がりを持った祈りであったのです。新年の歩みを始めるにあたって、このことを深く心に銘記したいと思います。この一年を歩み始めた私たちは神を必要としているのです。何故なら、神の計らいを信じることが出来る時、私たちは明日への希望をもって歩み始めることが出来るからです。

主の公現の祭日の今日の福音の東方の博士たちを導いた星の光が、多くの困難の中でこの新しい年を歩み始めた全ての人の心に届くことを祈りたいと思います。行く手の分からないこの年の初めの旅立ちに当たって、私たちは希望の光を必要としています。その光は博士たちの行く手から博士たちを導くために

輝き出たのです。私たちもそのような私たちを導く希望の光を必要としています。そして、今日の福音はそのような光があることを私たちに告げているのです。これが、この新しい年を歩み始めようとしている私たちへの神の応えです。迎えたこの年が私たちにとって、どのような年となろうとも、神はこの希望の星の光をもって、私たちの行く手を導こうとされているのです。そしてその星の光は、どのような苦境の中にあっても、明日を信じて立ち上がろうとしている全ての人の心の中に輝いているのです。

私たちがこの新年にあたってささげた祈りは、自分一個の願いごとを越えて、全ての人の幸せを願う広がりを持った祈りであったはずです。そのような祈りの広がりの中で、私たちは、神が私たちの祈りに応えてくださっていることを知ることが出来ます。どのような災害に見舞われようとも、どのような不幸のどん底に突き落とされようとも、私たちの中にはそこから這い上がって新たに歩み始めることが出来る可能性が与えられているのです。私たちにもそのような可能性が与えられていることを、あの災害の中から立ち上がろうとしている人々の姿を通して知ることが出来たのです。その人々の姿は、私たちにとって、今日の福音の博士たちの姿のように映らないでしょうか。その人々を立ち上がらせようとしているものこそ、あの博士たちを導いた星の光のように思えないでしょうか。私たちは全てを失ったとしても、私たちを立ち上がらせるに足る希望が失われない限り、新たに歩み始めることが出来ることをあのつらい経験を通して学ぶことが出来たはずです。

この一年の歩みを始める今日の主の公現の祭日にあたって、あらためて全ての人の上に、希望という星の導きを願ってこのミサをささげたいと思います。特に今年成人式を迎えた若い人々の上に、彼らの行く手を包んでいる暗闇を越えて力強く彼らの人生を歩み通す、神のみが与えることの出来る希望の光を祈りたいと思います。彼らが私たちの時代に希望をもたらす、東方の博士たちのようになってくれることを祈りたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高